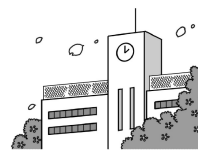


結 実

令和3年4月13日

No 3



順調なスタートを！

先週の保護者会の中で校長先生から「三年生の成長」を物語るエピソードが紹介されました。それは、「朝読書がしっかり出来ている」というお話でした。8:20までに登校し、昨年とは異なり静かに読書に取り組む姿があるということです。自覚や責任感が昨年以上に形成されている。素晴らしいことです。この4月は、「自分を変える」チャンスです。時節やタイミングをうまく使い、成長する姿を見せ続けてください。保護者の皆様も温かく励ましていただけるとうれしく思います。

3年生になって

3年A組

ようやく迎えた3年生ですが、これまで振り返ってみるとあっという間でした。自分はこの最後の1年を、「人生が決まる一年」だと思っています。この一年間の自分の苦労と高校、そしてその先の人生は比例すると思っています。

これまでと、これからは、全く異なった生活や日々が待っていると思います。そんな中でも、自分の課題を見つけ積極的に取り組んでいこうと思います。

そして、「甘え」や「妥協」「正当化」などといった、苦しい現実から逃げてしまうことも自分の弱みだと思っています。それが今でも学校生活や習い事等でも出てしまっています。そういった面でも課題が多くあると思っています。

自分はスポーツで高校に行くことが目標です。しかし、今の實力では到底叶いません。学校での勉強に加えて、家庭学習、そして習い事と、しっかりとこなしていく必要があります。文武両道を心掛けて、自分の人生へとつなげていきたいです。

最後に、このクラス40人、そして学年118人全員で、この人生が決まる一年をやりきりたいと思います。

3年生になって

3年B組

遂に中学校生活最後の1年間になった。3年生になると最上級生としての行動や受験など、いろいろと大変だったり、苦労もする1年になると思います。そんな年だからこそ僕は、何事にも全力で取り組もうと思います。

例えば勉強では、テストの点、普段の態度がそのまま内申点に関わってきます。だから1回の授業、1回のテストに全力で取り組むことで、自分にとっていい結果が訪れると思います。そのために計画的にテスト勉強することが今まで以上に大事だと思います。

自分は正直勉強は嫌いだけれど、苦手だからこそ苦手なものを頑張ることで自分のしたいことがより楽しくなると思います。これから今までに経験したことないような不安やつらさがたくさんあると思うけれど、そこをクラスのみんな、学年のみんなで助け合って、支え合っていくことで、つらい受験や物事を乗り越えられていけるとと思います。

僕はこの1年間で人として成長できる、そんな1年にしたいです。そして1年後自分の人生の記憶の思い出になるような1年にしたいです。

やっちゃんよ

3年C組

僕は、3年生に進級。変わったこと、変わりたい事があります。1つ目は、気持ちや勉強に向かう姿勢です。テスト、日頃の行動。気持ちは1・2年ではふざけたり、色んなことをしてきたが、3年という受験がある年になり、やってやろう、見返そうと思いました。春休み中は、勉強には一切手を付けてないが、4月7日の学校が終わってから、毎日最低1時間は勉強する時間を作って、少しはやろうと思って机に向かいました。

それで前もってテストの準備、受験の勉強をできるだけ多くやり、いい点数、第一志望の高校に行けるように取り組みたいし、予習・復習なども欠かさずしっかり行います。今自分は、毎日1時間やると言っても、4月9日の日はさぼってしまいました。なので、さぼった日は、次の日は倍やって、「1日休めば元に戻すには3日かかる」という言葉が本にあったので、その言葉も大切にしています。そして、その言葉を忘れずに勉強を取組んでいきたいなと思っています。

次に、日頃からの行動についてです。僕は、1・2年ともやってはならない事をやってきてしまいました。自分は1年生の時に、2年生になったらやらないようにしようとか、落ち着いて過ごそうと思っていたが、ついついその場のノリにのってしまいフザケ過ぎたり、やってはならない事もやってしまいました。なので、このまま3年生になったら、去年と同じになると思い、毎日勉強など、羽目を外しすぎない事とその場のノリにのり過ぎない事を注意して、3年生を楽しく協力しながら過ごしていきたいなと思いました。

※修学旅行 コース決め

どこに行こう？ どこにあるんだあ？と「わいわい～わくわく」しながら話し合って決めていくことって楽しいですね。班員みんなの希望を出し合いながら、みんなで納得のいくコース作りに勤しんでください。特に、2日目と3日目は、知恵の出しあいです。2日目を京都中心のコースにするか、途中の伏見・宇治を経由していくか…？

「小さいことを積み重ねるのが、とんでもないところへ行く
ただひとつの道だと思っています」

by イチロー